

講座ガイダンスと答案の書き方

1 本講座の使用テキスト

沖野眞已・窪田充見・佐久間毅編著『民法演習サブノート210問〔第2版〕』（2020年 弘文堂）

2 本講座の目標

テキスト・演習書を読み、答案の書き方の説明を聞き、「なるほど、分かった」

↓しかし、

「結局、どう答案を書けばいいのかわからない」＝初学者最大の悩み

↓原因は

「抽象的な答案の書き方が分かっていない」

「抽象的な書き方に沿って具体化された答案のイメージが確立できていない」

↓そこで

「短文事例問題の決定版」といえるテキストを使って、

「シンプル化」された「抽象的な答案の書き方」、

「シンプル化」された「抽象的な答案の書き方に沿って具体化された答案」を確認し、

「とりあえずの答案が書けるようになった」を目指す

3 シンプル化された民法を含む法律答案の書き方と民法の答案の書き方

(1) 抽象的な答案の書き方

法律答案の書き方	民法の答案の書き方
設問に答える その事案で何を検討するか ↓ それをどの条文との関係で検討するか ↓ 条文の文言に沿って検討 ↓（問題提起） ↓（↓） ↓（解釈・規範定立） ↓（↓） ↓ 当てはめ＝事実（＋評価）	設問に答える 言い分＝生の●請求・●主張 ↓ 請求・根拠の●根拠となる条文 ↓ 条文の文言＝●要件・●効果に沿って検討 ↓（●問題提起） ↓（↓） ↓（●解釈・規範定立） ↓（↓）

↓ ↓ ↓ 結論 最終的な検討結果	↓ 当てはめ＝●事実（＋●評価） ↓ ↓ ↓ ●結論 ●言い分＝生の請求・主張の可否の 最終的な検討結果
-------------------------	--

(2) 具体化された民法の答案の書き方

1 Aは、Bに対し、(●根拠)を根拠に、(●生の請求)を請求することが考えられる。当該請求をすることができるか。 2 (●要件)について、(●事実)があるから、当該要件に当たる(●結論)。 3 (●要件)について、(●事実)がある。つまり、(●評価)といえる。 したがって、(●要件)に当たる(●結論)。 4 (●要件)について、(●要件)とは、(●解釈)をいう。 本件では、(●事実)がある。つまり、(●評価)といえる。 したがって、(●要件)に当たる(●結論)。 5 (●要件)について、当該要件に当たるか(●問題提起)。 (●解釈)。 本件では、(●事実)がある。つまり、(●評価)といえる。 したがって、(●要件)に当たる(●結論)。 6 よって、Aは、Bに対し、(●生の請求)を請求することができる(●結論)。 以上

(3) 予備試験・司法試験本番での答案の書き方

令和4年司法試験予備試験論文式試験問題と出題趣旨・民法

……事例を題材として、契約不適合責任としての報酬減額請求の可否……を問うものである。請負の契約不適合責任……に係る民法の規律構造を踏まえた上で、事案に即した論述を展開することが求められる。

令和4年司法試験の採点実感（民事系科目第1問）（民法）

……論ずべき事項は、……③……詐害行為取消権行使の可否、④詐害行為取消しの要件と本問への当てはめ……である……。④については、民法第424条、第424条の5の要件を一つ一つ丁寧に検討している答案が多く、条文への当てはめを丁寧に行う受験生が多かったことは好印象であった。

↓つまり

上記民法の答案の書き方で予備試験・司法試験本番の答案を書くことができる

(4) 他にも答案の書き方はある

問題提起は、事実を踏まえつつ指摘する

解釈・規範定立は、理由付けと結論＝基準・規範に分かれる

解釈・規範定立は、趣旨から

論述をコンパクト化するために、三段論法を崩すなど

↓しかし

「結局、どう答案を書けばいいのか分からない」うちは、

「シンプル」な答案の書き方に絞る

↓

できるようになったら、他の答案の書き方も増やしていく

(5) 講座の受講の仕方

自分で、問題文・解説を読む(必要であれば自身のインプットテキストで知識確認)

↓

「シンプル化」された「抽象的な答案の書き方」、

「シンプル化」された「抽象的な答案の書き方に沿って具体化された答案」

の確認を繰り返す＝1回の確認でできるようにはならない

(6) 実際の問題を例に～第159問～

4 参考文献

佐久間毅『民法の基礎1 総則〔第5版〕』（2020年 有斐閣）

佐久間毅『民法の基礎2 物権〔第2版〕』（2019年 有斐閣）

安永正昭『講義 物権・担保物権法〔第4版〕』（2021年 有斐閣）

潮見佳男『プラクティス民法 債権総論〔第5版補訂〕』（2020年 信山社）

中田裕康『債権総論 第四版』（2020年 岩波書店）

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得 第4版』（2022年 新世社）

中田裕康『契約法〔新版〕』（2021年 有斐閣）

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法 第4版』（2021年 新世社）

窪田充見『不法行為法〔第2版〕』（2018年 有斐閣）

前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法Ⅳ 親族・相続 第6版』（2022年 有斐閣）

潮見佳男・千葉恵美子・片山直也・山野目章夫編『詳解 改正民法』（2018年

商事法務)

潮見佳男・北居功・高須順一・赫高規・中込一洋・松岡久和編著『Before／After 民法改正〔第2版〕 2017年債権法改正』(2021年 弘文堂)

森田宏樹監修『ケースで考える債権法改正』(2022年 有斐閣)

大島眞一『完全講義 民事裁判実務の基礎〔第3版〕(上巻)』(2019年 民事法研究会)

岡口基一『要件事実マニュアル 第6版 第1巻 総論・民法1』(令和2年 ぎょうせい)

岡口基一『要件事実マニュアル 第6版 第2巻 民法2』(令和2年 ぎょうせい)